

「肉、肉、肉、肉、肉、この私を救え、なぜ救わぬ」心の中から叫んでいました。「私は肉です」の思いが、いかに苦しいか地の底を這うような感覚です。「私は肉です」のその意識がどっと私のこの体にのしかかってきて、その重みを現実に感じました。本当に苦しい、肉をはずしたとき、私のこの心の世界がどどと押し寄せてくる感覚を味わいました。その中で、ああこんなに私の心の中は苦しいのかとふと心の向け先を変えたと思います。田池留吉と知らず知らずのうちに心が向いていたと思います。その苦しい私の中の意識たちが、今の私に伝えてくれました。「私達は肉として生きてきた意識でございます。苦しい、苦しい、苦しい、私達をどうぞ救ってください。この地獄のような苦しみから私達を救い出してください」と息も絶え絶えに伝えてくれました。切々と私に伝えてくれていました。肉を本物として生き続けてきた私の意識は、厳然として今も苦しみの中から訴えていました。肉体を持ち色々な状況に出くわし様々な心を動かしてやれ苦しいだの、やれ悲しいだのと勝手なことばかり言つていかに時を無駄に過ごしてきたかということを実感しています。肉を本物とする心の世界は、計り知れないほどの地獄でした。生きてその地獄のほんの一端を垣間見た感じです。私はこの学びを本当に肉の延長でとらえてきました。甘く甘くとらえてきました。自己供養、心の転回こそがすべてそしてそれだけが本当に本当に幸せの道でした。そしてまた田池留吉、アル

バ - トとこの心の向け先を変えれば、私の心はどこまでもどこまでも広がっていきます。これが4次元の感覚なのかと語っていました。私の心は広く広く止まることなく広がっていく体験もさせていただきました。心の世界の仕組みを思わざるを得ません。そしてすべては私の心の中にありました。肉を本物とする地獄の苦しみも、広い広いどこまでも広がっていくこの思いもすべてすべて私の意識の世界でした。そしてこの広がっていく心の中にUFOもありました。私はこれからアルバ - トの意識の中でUFOを受け入れていきます。UFOは恐怖ではありませんでした。UFOはアルバ - トとともに喜びの中にありました。それが私でした。心を広げてまいります。